

## 第6回 那覇空港滑走路増設事業環境監視委員会

# 第5回委員会の指摘事項と対応方針

平成28年6月10日

内閣府沖縄総合事務局

国土交通省大阪航空局



## 第5回那覇空港滑走路増設事業環境監視委員会の指摘事項と対応方針

### ●資料4 平成27年度における事後調査及び環境監視調査の結果について

項目	委員意見	対応方針
海域生物の生息・生育環境 (水質)	<p>工事進捗により、陸側からのフラッシュの流れが変わってくるので、きちんと説明できるようにしておくべきである。 (津嘉山委員)</p>	<p>現滑走路側からの排水路については、環境影響評価時の調査で把握しているので、環境変化がみられた場合、構造物の存在の有無や淡水影響の変化等についての考察を行う。</p>
	<p>外郭ができれば、河川の流れ、沿岸流などが変化する。その中で事業の影響を考えるには、構造物による影響かどうかよく考えなければならない。河川水の影響のないデータがあれば有益である。(鈴木委員)</p>	
海域生物 (植物プランクトン)	<p>工事影響を科学的に議論するためには、より確かな情報を提示いただきたい。プランクトンと塩分との関係については、プランクトンの種類や、その種がこの水域で常時いるものなのか等、さらに解析をすすめていただきたい。(土屋委員長)</p>	<p>生物の出現状況に変化がみられる場合、水質・底質等の生息環境との関係について解析を行う。</p>
海域生物 (底生動物)	<p>底生動物については、種組成など、どの種が増えたのかが示されるとより議論が深まる。(土屋委員長)</p>	<p>種組成で全体的な構成を確認するとともに、変動のみられる種についても確認を行う。</p>
	<p>底生動物や海草類は、海底の変化、粒度組成が影響する。底生動物は流れの影響であり、工事の影響はないとされているが、構造物ができたことによる波、流れの変化については、予測評価の結果もあわせて、説明するとよい。(津嘉山委員)</p>	<p>生物の生息環境として、水質・底質の事後調査結果を参考にしていることに加え、環境影響評価時に実施した潮流や波浪の予測結果についても参考とする。</p>
海域生物 (海草藻場)	<p>海草の被度は表現が難しいので、写真を合わせて提示するとよい。(土屋委員長)</p>	<p>本編に入れている写真の一部を概要版にも取り込むこととする。</p>
アジサシ類	<p>アジサシ類の調査は、具体的にどのような調査なのか。調査方法をより詳細に記述するとよい。(土屋委員長)</p>	<p>調査は年1回、1日(干潮時、上げ潮時、満潮時、下げ潮時の4回)、定点で観察している。調査時に飛翔した回数をカウントしている。</p>

●資料 5 海域生物の移植(サンゴ類)について

項目	委員意見	対応方針
有性生殖移植	有性生殖の 26-27 年のまとめの文章はもっともである。昨年の報道にもあったように、サンゴはあまり遺伝子的な交流が行われていないので、着床が少ないからといって調査を終わりにせず、検討を継続してもらいたい。(山里委員)	平成 28 年度の有性生殖移植については、平成 27 年度に実施した 5 地点 9 箇所のうち、着床率の高かった 3 地点 5 箇所において実施する。
その他	<p>モニタリング調査では、移植サンゴが産卵しているなどの繁殖に係る確認はあるか。確認があれば、将来、周辺のサンゴ群集の発展にも関係してくるので、ぜひ情報を集めてもらいたい。 (土屋委員長)</p> <p>移植サンゴについて、産卵状況を把握できる調査の実施を事務局に検討してもらっている。(山里委員)</p>	移植サンゴが当該海域で産卵していることが確認されれば、過年度実施したサンゴ移植事業が当該海域のサンゴの復元に寄与していることにつながるため、固定カメラによる移植サンゴの産卵確認調査を実施する。